

第2期 中川区将来ビジョン



令和6年度～令和10年度

中川区役所

発行・編集

名古屋市中川区役所区政部 企画経理課
〒454-8501 名古屋市中川区高畠一丁目223番地
電話: 052-363-4383 FAX: 052-363-4316
E-mail: a3634304@nakagawa.city.nagoya.lg.jp

中川区民の皆さまへ

日頃から中川区政の運営にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。中川区ではこのたび、令和6年度から令和10年度までのまちづくりの指針となる「第2期中川区将来ビジョン」を策定いたしました。

策定にあたりまして、皆さまには区民会議や区民アンケートなどの機会を通じて貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

中川区は豊かな自然環境や歴史的な資源・伝統行事などに恵まれている一方、土地が低く、河川が多くいたため、津波・洪水などによる災害が危惧されます。区民アンケートにおいても防災のニーズが最も高いという結果であったことを踏まえて、地域防災力の向上に注力して施策を展開してまいります。

また、このビジョンは令和2年度から令和5年度までの第1期中川区将来ビジョンの合言葉「つながりづくり♡まちづくり」を引き継ぎ、区役所と区民の皆さまとの協働や、地域の交流、連携を大切に、区役所職員一丸となって、さまざまな取り組みを進めてまいります。区民の皆さまには、引き続き、ご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願ひいたします。

令和6年5月 中川区長 久松 克典

目 次

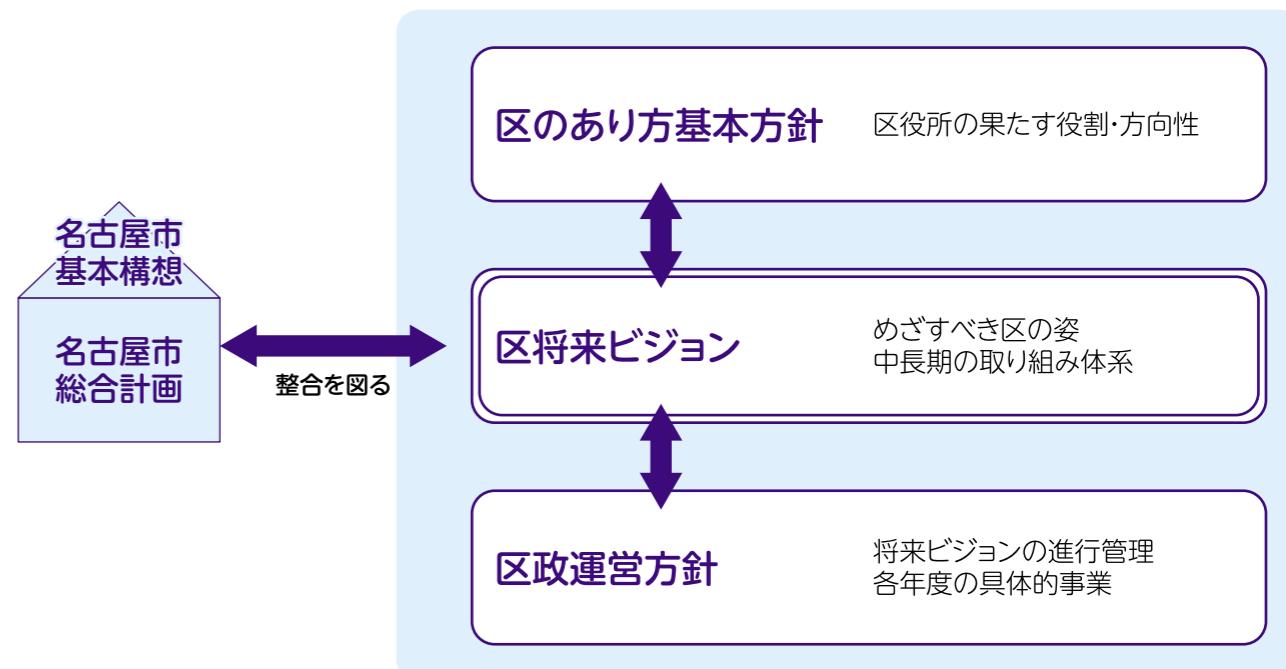
第1章 はじめに	1
1 区将来ビジョンとは		
2 第2期区将来ビジョンの計画期間		
3 第2期区将来ビジョンの策定まで		
第2章 第1期区将来ビジョンの総括	2
1 ふりかえり		
2 区を取り巻く環境		
3 第2期区将来ビジョンに向けて		
第3章 第2期区将来ビジョンでめざす中川区の将来像	11
1 めざすまちづくり		
2 まちづくりの合言葉		
3 めざすまちづくりに向けた取り組み		
第4章 めざすまちづくりの実現に向けて	18
1 区将来ビジョンの進行管理		
2 住民に身近な総合行政機関		
3 DXの推進		
4 SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて		
第5章 中川区の概要	19

① 区将来ビジョンとは

区将来ビジョンとは、区を取り巻く社会状況の変化を踏まえ、めざしていく区(まち)の姿を明らかにし、その実現に向けた中長期の取り組みを体系化したものです。「区のあり方基本方針」(平成29年3月策定)に基づき各区が策定するものであり、「名古屋市総合計画2023」の個別計画として令和2年5月に「第1期中川区将来ビジョン」を策定しました。

令和2年度から令和5年度までを計画期間として策定した第1期区将来ビジョンを踏まえて、今回、新たに第2期区将来ビジョンを策定しました。

区将来ビジョンの進行管理及び年度ごとの具体的な取り組みは、毎年度策定する区政運営方針に掲載します。



② 第2期区将来ビジョンの計画期間

令和6年度から令和10年度までの5年間

③ 第2期区将来ビジョンの策定まで

令和4年度から、区民会議(※意見収集の場「なかが話」を含む)や区政推進会議及び区民アンケートにより意見収集を行い、区民の皆さまのご意見を反映して、「第2期中川区将来ビジョン(案)」を作成しました。令和5年度には「第2期中川区将来ビジョン(案)」に対して区民の皆さまから意見を伺い、令和6年5月「第2期中川区将来ビジョン」を策定いたしました。

その2 みんなにやさしいまち

施策2-1 子育て環境の充実

指 標	令和元年度 基準値	令和5年度 目標値	令和5年度 達成値
子育て支援の取り組みが 進んでいると思う区民の割合★	53.8%	60%	57.5%
なかがわっ子サポートー*活動件数	255件	300件	273件

*なかがわっ子サポートー:中川区内で、子育てサロンや子育て交流イベント等の地域における子育て支援活動を行うボランティア

施策2-2 子ども・青少年の健全育成

指 標	令和元年度 基準値	令和5年度 目標値	令和5年度 達成値
青少年育成への取り組みが 進んでいると思う区民の割合★	34.4%	40%	44.3%
子ども会への加入率	24.6%	25%	14.1%

施策2-3 健康でいきいきと暮らせるまちづくり

指 標	令和元年度 基準値	令和5年度 目標値	令和5年度 達成値
高齢者・障害者支援への取り組みが 進んでいると思う区民の割合★	50.3%	55%	50.9%
高齢者サロン・共生型サロン*1の実施数	120箇所	122箇所	128箇所
認知症サポートー養成講座*2受講者数(累計)	10,540人	16,200人	13,019人

*1 高齢者サロン・共生型サロン:
高齢者の方が身近な場所で気軽に集まり、楽しくふれあいを深めて交流することができる場所。高齢者サロンは高齢者同士が、共生型サロンは子どもから高齢者までが一緒に交流でき、地域の「お茶の間」や「たまり場」として、元気な高齢者をはじめ地域住民等が自主的に運営しています。

*2 認知症サポートー養成講座:
認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする「認知症サポートー」を養成するための講座。いきいき支援センター等の地域の身近な場所で随時開催しています。

◎主な取り組みの結果

- 区独自の子育て支援サイト「なかがわっ子」をはじめとした子育て支援情報の発信や地域の子育て支援機関と連携して、子育て家庭の交流の場を充実させることができた。(子育て)
- 区独自の健康づくり(フレイル*予防)に関するパンフレットと動画を作成、周知するとともに、「名古屋市フレイル予防ポイント&見守りアプリ」の推奨を実施した。(健康・福祉)

*フレイル:加齢にともない、筋力や心身の活力が低下した状態。

◎課題

- 子育て家庭が困ったときに気軽に支援につながることができるよう、関係機関との連携をさらに深め、支援の場の周知や、つながるきっかけをつくる必要がある。(子育て)
- サロンの廃止やコロナ禍の影響により高齢者と地域とのつながりが希薄になり、孤立やフレイル等の生活課題が引き起こされている。(福祉)
- コロナ禍において、地域での健康教室や相談、がん検診の普及啓発の機会を持てないことがあり、改めて健康づくりへの意識づけが必要となっている。(健康)

第1期区将来ビジョンで実施してきた主な事業

子育て交流イベント

地域の子育て支援機関と連携し、子育て家庭の交流を促すイベントや「子育てスタンプラリー」を開催しました。



子育て交流会

子育て支援に関する情報発信

子育て支援サイト「なかがわっ子」について子育て家庭の実情を踏まえた内容の掲載やスマホでの利用に最適化させる等、情報提供の充実に努めました。

また、子育て支援サイトを利用しにくい家庭には、紙面での情報提供の充実に努めました。


 なかがわっ子
ホームページ画面

区民の健康づくりの推進

コロナ禍の外出控え・運動不足による認知機能低下を防ぐことを目的に、運動の勧奨を中心においたフレイル予防動画を作成しました。

また、健康教室や健康相談を実施しました。



フレイル予防動画

③ 第2期区将来ビジョンに向けて

○第1期区将来ビジョンをとおして

「つながりづくり♡まちづくり」を合言葉に策定された、第1期区将来ビジョンの計画期間では、長期に渡り、新型コロナウイルス感染症の影響による不要不急の外出・移動の自粛等により、人ととのつながりが分断された時期がありました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこと、ほとんどの事業が本来の形で再開されていますが、区民アンケートの意識調査等から、第1期区将来ビジョンで定めた多くの施策の達成度が目標未達となっています。したがって、第2期区将来ビジョンでは、中川区がめざす将来像等の基本方針について、第1期区将来ビジョンの想いを継承し、よりいっそう人ととのつながりを大切にしたまちづくりを進めていきます。

合言葉についても、引き続き、「つながりづくり♡まちづくり」として、区民の皆さんとともに、中川区のまちづくりに取り組んでいきます。

○安心・安全きれいなまち

南海トラフ地震の発生が懸念される中、新型コロナウイルス感染症の影響によって防災活動が縮小され、防災に関する危機意識が低下しているおそれがあります。災害対策は中川区の最重点施策として取り組みを進めています。

防犯、交通安全対策については、「犯罪のないまち中川」、「交通事故のないまち中川」をめざし、中川区は区民の防犯・交通安全意識が高いまちであると広く認知されるよう、さらなる意識向上の取り組みを進めています。

○みんなにやさしいまち

家族や世帯のあり方が変化する中、妊娠期から学齢期まで切れ目がない子育て支援や青少年の健やかな成長を支える取り組みを進めています。

高齢者や障害のある方が地域で安心して暮らせるよう、適切な支援につなげていきます。

また、幅広い年齢層の方が早期に健康づくりに関心を持ち、心身ともに健やかに暮らせるよう取り組みを進めています。

○魅力あふれるまち

新型コロナウイルス感染症の影響による区民まつりをはじめとした各種イベントの縮小、中止を経て、あらためて区民の皆さまのふれあいや交流が大切であると認識しました。中川区には、伝統あるまつりや史跡、農産物等、さまざまな魅力が存在します。これらをより効果的に発掘・発信をしていきます。

① めざすまちづくり

第2章での第1期区将来ビジョンの総括を踏まえ、第2期区将来ビジョンで中川区がめざすまちづくりを以下の3つにまとめました。

その1

● 地震・風水害等の災害に強く、犯罪・交通事故が起こらない、
「安心・安全なまちづくり」

その2

● 安心して子育てでき、子どもがのびのび遊び、高齢者をはじめ誰もが
いきいきと暮らせる**「みんなにやさしいまちづくり」**

その3

● 歴史や実り豊かな農作物等の区の魅力を発掘・発信して、にぎわいや
活気があり、快適に暮らせる**「魅力あふれるまちづくり」**

② まちづくりの合言葉

行政と区民の皆さまとの協働、地域の皆さま同士の連携やつながりが大切であると考え、「つながりづくり♡まちづくり」を合言葉にまちづくりを進めています。

つながりづくり♡まちづくり

③ めざすまちづくりに向けた取り組み

「安心・安全なまちづくり」「みんなにやさしいまちづくり」「魅力あふれるまちづくり」を掲げて、区民の皆さんとともに次のように取り組んでいきます。

安心・安全な
まちづくり

- ▶ 施策1-1 災害から生命を守るまち
- ▶ 施策1-2 犯罪や交通事故から生命と財産を守るまち

みんなにやさしい
まちづくり

- ▶ 施策2-1 安心して子育てができる、子どもが健やかに育つまち
- ▶ 施策2-2 高齢者や障害のある人も安心して暮らせるまち
- ▶ 施策2-3 誰もが健康でいきいきと暮らせるまち

魅力あふれる
まちづくり

- ▶ 施策3-1 区民のふれあいと交流が盛んなまち
- ▶ 施策3-2 まちの魅力の発掘・発信
- ▶ 施策3-3 快適に暮らせるまち



その3 魅力あふれるまちづくり



施策3-1 区民のふれあいと交流が盛んなまち

地域、企業、関係団体等と連携・協力して、区民まつりをはじめとしたさまざまなイベントを開催することで、幅広い世代の方が気軽に参加し、交流することができる場を創出し、区民相互のふれあいや交流の推進を図ります。

成果指標

指 標	令和5年度 現状値	令和10年度 目標値
区民のふれあいや交流を推進する取り組みが進んでいると思う区民の割合★	51.7%	63%
区民まつり来場者アンケートで「とても良かった」と回答した来場者の割合	68%	73%

施策3-2 まちの魅力の発掘・発信

区名の由来となった中川運河をはじめとした豊かな水辺環境や、「前田利家公」ゆかりの史跡、区内発祥の特産農産物等、中川区の魅力をさまざまな機会を通じて積極的に情報発信することで、中川区に対する誇りや愛着の醸成・高揚を図ります。

成果指標

指 標	令和5年度 現状値	令和10年度 目標値
SNSによる発信件数	259件	272件
中川区に愛着を感じている区民の割合★	87.7%	93%



施策3-3 快適に暮らせるまち

誰もが快適に暮らせる環境をつくるため、区民の皆さんや関係機関・団体と連携協力し、クリーンキャンペーン等の「まちを美しくする運動」の推進や空地・空家等の適切な管理の推進を図ります。

また、ペットの飼主を対象に、区民からの情報やイベント等の機会を活用しながら、ペットの飼主マナー向上について、啓発等の取り組みを進めます。

成果指標

指 標	令和5年度 現状値	令和10年度 目標値
快適な環境づくりへの取り組みが進んでいると思う区民の割合★	49%	55%

トピック

○中川運河

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅との間の貨物輸送と、江戸時代の初期から名古屋の物流の大動脈となっていた堀川との相互通行を図るため、上流部は笈瀬川、下流部は中川と呼ばれていた曲がりくねった川幅の狭い浅い川を、真っ直ぐに広く深く掘って造られ、昭和7年に全線が開通しました。

この運河には、水位を調節して船が通過できるように、中川口と松重に閘門(通船門)が造されました。また、運河の開削に伴う大量の土砂で沿岸を埋め立て、工場や倉庫を誘致したことにより、沿岸は名古屋市南西部の発展の拠点となりました。以後、中川運河は「東洋一の大運河」と称され、名古屋港と都心を結ぶ水運による一大輸送幹線としての役割を果たしました。



建設中の松重閘門(名古屋港管理組合提供)

昭和40年代に入ると、水運による貨物輸送はトラック輸送へと転換し、運河の水運物流が減少しました。「うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河」への再生を目指すため、平成24年に「中川運河再生計画」が策定され、水上スポーツや芸術活動が行われるようになったほか、貴重な水辺景観を活用した飲食店の立地やクルーズ船の運航等、中川運河は新たな役割を果たすようになります。



① 区将来ビジョンの進行管理

めざすまちづくりに向けた具体的な取り組みについては、毎年度策定する「区政運営方針」で皆さまにお知らせします。

また、取り組み一つひとつについて、達成度などの評価を行い、その結果や区民の皆さまのご意見等を参考に、取り組み内容の改善や拡充、新たな取り組みの実施や廃止を行う等、めざすまちづくりの実現に向けて進行管理を行っていきます。

② 住民に身近な総合行政機関

区のあり方基本方針(平成29年3月策定)においては、めざすべき区役所像を、地域の課題解決や区の特性に応じたまちづくりに住民の皆さまとともに取り組む「住民に身近な総合行政機関」としています。

そのため、中川区役所では、窓口サービスの向上を図る等、利用しやすく親しまれる区役所をめざすとともに、区民会議の開催や区民アンケートの実施により皆さまの声をよく聴き、区政へ反映していきます。

③ DXの推進

名古屋市役所DX推進方針(令和4年3月策定)においては、デジタル技術の活用により、一人ひとりにより適したサービスの提供をめざしています。

紙媒体での申請やお知らせ、対面を前提とした受付といったアナログ的な規制や手続きのあり方を見直し、手続きのオンライン化や「待たなくてよい」「書かなくてよい」「分かりやすい」スマート窓口の導入等を進めていきます。

④ SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて

SDGsは、2030年までに達成すべき世界共通の目標であり、健康や教育、経済成長、気候変動などに関する17のゴールで構成されています。

区将来ビジョンの施策を推進していくことにより、SDGsの達成に寄与すると考えられるゴールについて、そのアイコンを「めざすまちづくり」に掲げています。



① 中川区のシンボル

○ 区のシンボルマーク



昭和61年12月に制定。

中川区の「中川」の文字を区の全形にデザイン化し、川が多いという区の特徴を文字の中にイメージしたものです。

○ 区の木 クロマツ



昭和62年(区政施行50周年)5月に区の木に制定。

海岸近くに生育する常緑高木で、潮風に耐えることから、防風・防潮林として用いられ、松原や松並木の名所が各地にみられます。

○ 区の花 ハボタン



昭和62年(区政施行50周年)5月に区の花に制定。

葉の集まりがボタンの花を思わせる、ヨーロッパ原産のアブラナ科の植物です。「祝福」や「利益」といった花言葉から、万両とともに正月飾りとして親しまれています。

○ 区をイメージする漢字「青」



平成30年度中川区区民まつり「中川区をイメージする漢字決定選挙」で選ばされました。

多くの川、あおなみ線、青信号(安心・安全のまちに向かって進む)、青菜(ミツバ等)から区をイメージしたものです。

○ 区のマスコットキャラクター



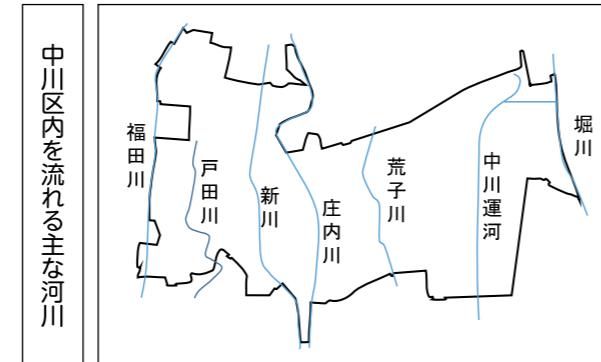
不思議な川の生き物
誕生日:8月1日
性格:頑張り屋
チャームポイント:
どうしても直らない2本の寝ぐせ



「ハボタン」の小さな妖精
誕生日:10月28日
趣味:
花をきれいに咲かせること

中川区ってこんなまち

中川区は、名古屋市の中西部に位置し東西に長く広がる地形で、区内には区名の由来となった中川運河をはじめ、福田川、戸田川、新川、庄内川、荒子川、堀川の7つの河川が流れています。



東部は、古くからの商店街を中心に発展を続け、中川運河沿いには鉄工所・木工所・倉庫等が立ち並び、工業地帯を形成しています。

また、近年では中川運河沿いで水面を活用したアートイベントが行われる等、新しい試みが行われてきています。



中央部は、区役所をはじめ主要な官公所が立地し、地下鉄高畠駅周辺は商業地域としても発展しています。

また、前田利家公生誕の地である荒子には、尾張四観音の一つである荒子観音寺をはじめ、多くの史跡があります。なかでも、荒子観音寺には、千体以上の円空仏や国の文化財に指定されている多宝塔があります。



西部は、古くから稲作を始めとした農業が盛んな地で、現在多くの田畠が残る自然豊かな地域です。

また、元禄15年から約320年の歴史を持つ戸田まつりは名古屋市指定無形民俗文化財に指定されており、4年に1度山車祭が行われます。



区のあゆみ

年月	事柄
昭和12年10月	中区と南区の一部を合わせて中川区創設
昭和30年10月	富田町を中川区に編入
昭和50年1月	現中川区役所庁舎完成
昭和57年9月	地下鉄高畠駅開業
平成2年10月	第1回中川区区民まつり開催
平成2年10月	人口20万人突破(第15回国勢調査)
平成3年1月	現富田支所庁舎完成
平成16年8月	区のマスコットキャラクター「ナッピー」誕生
平成16年10月	あおなみ線開業
令和3年5月	名古屋第二環状自動車道名古屋西JCT以南開通

